

学童保育指導員の皆様へ

今回の新型コロナ・ウィルス禍の心配から、政府の突然の全国の小中学校一斉休校指示の直撃を受けたのが学童保育だったと思います。保護者の要望から長期休暇中と同じ時間帯の開設を求められた学童保育も多かったと思います。そしてそれに対応できる学童保育指導員の確保が難しい自治体の話も聞こえてきます。このような状況下でも、多くの学童保育指導員の方々は、子どもたちと保護者のために頑張っておられることと思います。このような時期に、指導員の方々に気を付けて子どもに対応していただきたいことを挙げてみます。

学童保育室では基本的に毎日決まった日課を設けていると思います。この時期もできるだけ平常時の開設期間と同じように、子どもたちの普段の生活リズムを保つように努めましょう。そしてその日課の中で、それぞれの子どもに役割があって、誰かの役に立つ生活ができ、本人もそれを実感できるようにしましょう。

そして、指導員はできるだけひとり一人の子どもと会話をするようにしましょう。子どもに禁止や命令口調のことは掛けばかりするのではなく、子どもの話をていねいに聞き、気持ちを受け止め、必要に応じて子どもに分かるように説明することが大事です。ただしこの時期、新型コロナ・ウィルスの話題をただ不安をかき立てるように話すことは控え、適切な防御と対応の仕方を教えるようにしましょう。

子どもにとって、遊びは勉強と同等にあるいはそれ以上に大事なことです。体を動かして楽しく遊ぶ時間を確保しましょう。閉じ込められたような生活が続くと、子どもは発散の場を求めて他者に攻撃的になり、危険な行動をとることが多くなります。目が離せなくなり、監視と叱責ばかりが多くなるような状況になることが心配されます。できれば指導員も参加して、ドッジボールや縄跳びなど、楽しい運動遊びを一緒に楽しむのが望ましいと思います。

保護者には、お迎え時や連絡帳で子どもたちの様子をほめることを中心に伝えるようにしましょう。家でのテレビゲーム漬けなどは、人との関わり形成の機会を奪い、青年期の引きこもりにつながりかねません。家族団らんの時間を大切にしてほしいと願っています。

指導員は、長時間の勤務などで疲れてくると、つい叱ることが多くなり、子どもたちとの関係も悪化しがちです。セルフケアも大事です。少しの時間でも自分のための時間を持つようにしましょう。そして仕事と家庭生活の気持ちの切り替えをきちんとしましょう。

子どもは、安心できる大人と一緒にいることが何よりの安心感につながります。指導員の方々が笑顔で子どもたちに向き合い、子どもたちの心の成長を支援していって下さるよう願っています。 — 自分にやさしく、他者にもやさしく！ —

2020年4月3日

「ケア宮城」代表 畑山みさ子（宮城学院女子大学名誉教授）